

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2017.3 vol.131

第5回 鹿児島医療センター 地域医療連携懇談会を開催して

去る1月30日、鹿児島医療センター地域医療支援病院運営委員会および地域医療連携懇談会を、城山観光ホテルにて開催しました。例年11月頃の開催のところ、今回は、ハイブリッド手術室の完成後の開催予定としていました。完成予定が延び、地域の連携病院から開催時期の問い合わせもいただきご迷惑をおかけしましたが、無事今年度中に開催できました。

第15回 鹿児島医療センター地域医療支援病院運営委員会

懇談会の前に地域医療支援病院運営委員会を開催し、外部より6名、院内より6名の計12名の委員の方々にご出席して頂きました。院長挨拶、続いて運営委員長の鹿児島県医師会副会長の野村秀洋先生の挨拶で開催しました。

事務局より、地域医療支援病院紹介率・逆紹介率の推移、救急車搬送数、大型医療機器共同利用の実績、ドクターヘリ受入れ状況、地域の医療従事者向け研修実績等、当院の現状を報告しました。その後、委員の皆様方から当院の運営および将来像について有益なご質問やご意見を頂きました。

第5回 地域医療連携懇談会

花田修一院長の開会挨拶で始まり、今回は、ハイブリッド手術室の完成を目前にし、当院でこれから行う主な治療について下記の3演題で講演しました。

講演会

- ①「エキシマレーザーによるリード抜去」
(園田 正浩 循環器部長)
- ②「当院におけるステントグラフト治療の現状」
(中島 均 統括診療部長)
- ③「経カテーテル大動脈弁治療TAVIに向けて」
(豊川 建二 心臓血管外科医師)

他の地域で行われているTAVIの治療を、南九州でも早く出来る様に準備しておりますので、困っている大動脈弁狭窄症患者がおられましたらご紹介して頂きたいと思っております。

講演後、意見交換会に入りました。

意見交換会

野村秀洋先生に乾杯の挨拶をして頂いた後、意見交換会に入りました。

懇談会には、医師に加え、看護部、医療ソーシャルワーカー、地域連携室、薬剤科、検査科、放射線科および事務部等の地域医療を支えている多職種のスタッフに多数出席して頂きました。同じ職種の方はなるべく近い座席になるようにしたことも相まって、皆さんさっそく名刺交換等にて交流を深めており、当懇談会が顔の見える連携の場になっていると感じました。

また、多くの研修医が当病院を選択してくれるようになり、DPC病院Ⅲ群からⅡ群に選定されました。意見交換会の途中で当院の研修医を紹介させて頂き、その後、当院での各部署・部門での活動ビデオを参加者に見ていただきました。

最後は、森山由紀副院長の挨拶で閉会しました。

当センターが鹿児島医療圏における地域医療支援病院として平成18年2月に鹿児島県の承認を受け、今年度で11年目となりました。この間、多くの先生方から多大なご指導とご支援のおかげをもちまして、地域医療支援病院として歩みを続けておりますことを感謝申し上げます。

当院は、今後も、病院訪問や講演会等をはじめ、地域の医療施設との連携を深めたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくご指導お願いいたします。

(文責：メディカルサポートセンター長 園田 正浩)



定年退職のご挨拶

事務部長 太田 春彦



とうとうこの日を迎えました！

昭和54年4月に岡山県にあります国立療養所長島愛生園に採用となり38年、当時は定年退職など遙か先のことだと思っていたのですが、月日が流れるのは速くとうとうこの日を迎えることになりました。

この38年の間に12回の引っ越しと13ヶ所に勤務させていただきました。単身赴任も通算15年と結婚生活32年のうち半数近くを家内と離れて暮らしたことになります。

勤務場所も「地方医務局」をはじめ「急性期」「結核」「重心・筋ジス」「精神」「ハンセン」と多くの病床種別に勤務させていただきました。それらの勤務場所では様々な思い出がありますが、振り返ってみると大河なく過ごしたというよりはいろいろな出来事があったように思います。数々の失敗もありましたが、特に役職者になってからは、行く先々で大きな案件が待ち構えていたり新たに発生したりとその対応に苦慮したことが幾度となくありました。ただ、そういったことを経験することにより自分自身が成長していったように思います。何より解決・改善したときの達成感に変えがたいものでした。

それらの経験の中で思うことは、難しい案件でも真摯に向き合い汗をかいて取り組んでいくと、ある時点で「風が吹いてきたり」「一筋の光が見えてきたり」することでありました。もう無理かなと思ったときに「もう一度やってみよう」とトライしたとき、急転直下解決に向けて動きだしたこともありました。

最後の3年間は鹿児島医療センターにお世話になりました。当院の3年間で一番の思い出は院長先生と二人三脚で将来構想実現に向けて奔走したことでした。現在、実現途中ででありこの段階で退くのは心残りではありますが、自分にとっては充実した3年間でありました。その他自由な雰囲気の中、院長先生はじめ幹部の皆様のご理解の基に様々な立案をさせていただいたこと、そして職員の皆様のご協力を得てそれらが形となって実現していったことに感慨深いものがあります。

また、連携病院の事務長さん達とは公的・民間・急性期・慢性期等の垣根を越えて定期的に集まり、酒を酌み交わしながら意見を交わしたことも忘れることの出来ないものになりました。こういう組織の違う事務職員同士の繋がりには私が長年望んできたことであり、最後の勤務地で実現できたこと、そして何より連携病院の事務長さん達のご協力があったからこそであり、そういう意味からもここ鹿児島の地は思い出深いものになりました。

今後は、地元熊本に帰り第二の人生を歩んでいきたいと思っています。最後になりますが、鹿児島医療センター並びに地域の医療機関の皆様の益々のご発展を祈念し挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

定年退職のご挨拶

看護部長 上別府 昌子



「全ての方に感謝致します」

「10年ぶりに戻ってきました」と赴任の挨拶をしてから瞬く間に4年の歳月が流れました。この3月31日に「鹿児島医療センター」を後にすると共に、定年退職になります。鹿児島大学病院で看護師としてスタートし、国立病院・国立病院機構を3～6年ごとに8回異動しました。幸いなことに同じ病院へ戻ることもあり、慣れた環境で看護部長として看護管理者として勤務できたことに感謝しております。何よりも「うえんびゅうです」と説明の手間が省けた事も理由の一つかもしれません。

手術室勤務を含め急性期でスタートした時「私は急性期が向いている」と思い、その後脳卒中病棟勤務で「リハビリを受ける患者の看護をしたい」と思い、看護師長になってからも様々な病棟で周囲の方々から看護観・管理観を育てていただきました。特に国立病院での医療安全係長一期生として、この鹿児島医療センターで学べたことは今でも大変役立っています。経験が全ての肥やしになり、看護部長になってからの10年間の支えになりました。

「患者さんを看れる」看護師を一人でも育てたい。そして、「看護師は患者を中心とした土壌で話をすると、いかなる問題も自己の感情に翻弄されない結論が出てくるし、同調できる」との思いで看護部長を務めてきました。一人ひとりが力を発揮できる環境をつくれたか自問自答しています。

平成12年からの3年間で25年からの4年間、7年にわたり私自身が「鹿児島医療センター」に学び、育てていただきここから感謝しております。これからも質の高い医療で地域に必要とされる鹿児島医療センターの、益々の発展をお祈りいたします。

中間管理者研修

平成28年度の中間管理者研修が昨年同様ホテルウェルビュー鹿児島にて1月27と28日の2日間にわたって開催いたしました。

27日は「施設環境と患者安全」というテーマのもと、物的設備を安全に整えることにより事故を防止するという側面から、工学院大学建築学部建築デザイン学科教授の笈淳夫先生よりご講演していただきました。実際に発生した転倒・転落といった医療事故を事例にしながら人と環境の関係を、人に対する「身体・生物的側面、心理的側面、社会文化的側面」と、環境に対する「物理的側面、对人的側面、社会文化的側面」に分け、さらに環境につきましては「患者様を取り巻く療養環境」と「医療スタッフの作業・労働環境」の必要性をご講演していただきました。よく「患者様の立場に立って」と言われますが、このように細分化して考えたことはなく、参加者は皆熱心に耳を傾けていました。例年は「病院の将来構想」や「人材育成」というテーマが多く見られていましたが、このようなテーマは私を含め初めてだった職員が多く、目から鱗だったのではないかと思います。その後、午後8時30分より懇親会が催され、多職種の職員がそれぞれ交流を深めました。

28日は用意された3つ事例について、それぞれ3班ずつ合計9班に分かれグループワークを行いました。各班とも医師・看護師・コメディカル・事務といった多職種で構成されており、話し合いは1時間半と短時間ながら前日に学んだことを活かしつつそれぞれが異なる立場の観点から行われ、発表に対しても活発な質疑応答があり、時間が足りないという光景も見られました。最後に森山副院長と有村副学校長より講評を、花田院長より総評をいただき、2日間にわたる中間管理者研修は終了となりました。

今回の「施設環境と患者安全」というテーマは即実践できるものから長い時間を必要とするものまで幅広い分野にわたっているかと思います。この1回で終わりにするのではなく、今後職員全体で何度も話し合いを行い、検討すべき課題であると強く感じました。

(文責：経営企画係長 吉岡 幸宏)



新任紹介

放射線科

平木 嘉幸



本年2月から放射線科に勤務させていただきます。福岡県生まれ、鹿大卒業で鹿大で平成5年以前は主にIVRを、平成6年からは放射線治療(RT*)を専門として、S BRT(定位体幹部RT*)、IMRT(強度変調RT*)、IGRT(画像誘導型RT*)、呼吸同期RT*、Adaptive RT(適応RT*)、密封小線源治療、温熱併用RT*を行ってまいり診療、研究、教育に携わり、平成21年からは放射線治療部門長を務めて参りました。

平成26年からはcyber-knife治療に、平成27年からは都城医療センターに勤務させていただきました。

今後、地域の患者さま並びに諸先生の為になる放射線科を目指して行く所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

心臓血管外科

上田 英昭



2度目の赴任になります。前回3年間の赴任させていただいた際の経験を基に、心臓血管外科専門医を習得してきました。現在、資格に見合った技術、知識、人力をつけるよう修練中です。色々ご迷惑をかけると思いますが、よろしくお願い致します。



平成28年度 がん診療における 医科歯科連携講習会

第3回

鹿児島医療センターでは、平成27年度より鹿児島県がん診療連携拠点病院医科歯科連携推進事業を鹿児島県から委託され、平成28年度も本事業を継続して行ってきました。本事業は、がん治療及び歯科医療に従事する関係者の資質向上を図り、がん診療における医科と歯科の連携を推進することを目的とし、がん医療に携わる関係者に対して講習会を実施してきました。本年度も2回の講習会を終え、今回平成29年2月18日（土）に鹿児島県歯科医師会館大ホールにおいて「平成28年度第3回がん診療における医科歯科連携講習会」を開催しました。

講習会は花田修一院長による開会挨拶により開演しました。先ず講演として『鹿児島県各市郡での医科歯科連携の現状』と題して、南九州病院外科部長小倉芳人先生の座長のもと、指宿医療センター副看護部長白石早苗先生からは「指宿医療センター 医科歯科連携の現状と課題」、公益社団法人始良地区歯科医師会専務理事谷口拓郎先生からは「始良地区歯科医師会における医科歯科連携の取り組み」をそれぞれご講演いただきました。また、座長の小倉芳人先生からも南九州病院での医科歯科連携の効果についても追加講演いただきました。続いて、病院歯科として医科歯科連携を先駆的に推進している武蔵野赤十字病院特殊歯科・口腔外科部長道脇幸博先生を講師に招き、中村康典歯科口腔外科医長の座長のもと、『医科歯科連携で入院患者の肺炎を予防し在院日数を低減しよう』の特別講演を行いました。指宿地区、始良地区での医科歯科連携は歯科のない病院との連携推進に貴重な提言を頂きました。また、特別講演では、医科歯科連携による肺炎予防の効果だけでなく、在院日数の低減や医療費の軽減など医療経済的な効果についてもご講演いただき、主催者である我々だけでなく今回の参加者にとっても非常に有意義な講習会となりました。

今回の講習会も昨年度と同様に、医師、歯科医師、看護師をはじめ多くの職種の方々が参加され約123名の医療関係者の参加を頂き、盛況な講習会が開催できました。参加者からは今後も今回の講習会の開催の要望もいただきましたが、本事業は今年度で終了となりました。来年度以降は鹿児島県歯科医師会と連携し、医科歯科連携の推進のためこのような講習会を企画していきたいと考えます。今後も医科歯科連携講習会の開催の際には皆様のご参加をお願いいたします。

最後に、本講習会開催にあたり、ご協力、ご支援頂きました院内各部署および、各施設、団体に厚く御礼申し上げます。

（文責：歯科口腔外科医長 中村 康典）



■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

代TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・谷口・田上・吉永・椎原・迫田・中田・吉留・菊永・久保・櫻木・田辺・宮崎

【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ脇・原田・上妻

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

